



会長表彰を受けて

東京保育専門学校

第 91 回期生 小山 裕太

このたび、会長表彰という荣誉ある賞をいただき、大変嬉しく、光栄に思います。この素晴らしい賞をいただくことができたのも、学校の先生方や友人たち、また、生活を支えてくれた家族、その他この 2 年間で関わらせていただいたすべての方々がいらっしゃったからだ、心から感謝しております。

私は 18 歳で一度社会に出て仕事をしていましたが、子どものころからの保育士になりたいという夢を忘れられず、20 歳で退職し、そこから 3 年間保育助手をしました。

実際に保育の現場に出てみると、子どもたちと過ごすのは楽しいですが、一方で、大変なことや辛いことも味わい、さらには、とても頭を使う難しい職業であることを知りました。しかしながら、子どもたちの日々の成長を間近で見守ることができる、こんなにも素晴らしい職業に巡り合えた実感は消えず、私は幸せでたまりませんでした。

私は、創立 90 周年を迎えた東京保育専門学校に、男子 1 期生として入学しました。当初は「多少、現場経験があるからいけるだろう」と天狗になっている自分でしたが、授業が進むにつれ、その愚かさに気づかされました。以後、日々の学びをとおして多くのことを身につけたので、実習では、その内容を自然に活かすことができました。

沢山の挑戦もできました。指導担当の先生から「やってみたいことはある？」と尋ねられた時、ひげダンスをしながらけん玉をして子どもたちを驚かせ、楽しい思い出を作りました。実習の終わりには先生から感極まる講評のお言葉をいただき、補助ではなく、学ぶ者として実習に行く大切さを知りました。

突如として現れた新型コロナウイルス。このウイルスのために、一時授業はリモートになり、実習が中止になる学生も出始めました。学校行事の中止も続き、先々が本当に不安になりました。しかし、学校はコロナ対策を急ぎ、いち早く対面授業を再開し、実習も各園にお願いしていただき、学生を全面的にサポートしてくださいました。おかげさまで、私たちは無事卒業し、晴れて保育者になれたことを心から感謝しています。

保育の現場でも、ウイルスの問題により、子どもの発達や成長の場面である行事や人と人との関りが減ってしまったことは、とても残念に思います。しかし、出来ないことを嘆くのではなく、いま何ができるのかを私は考えていきたいと思えます。

子どもたちの可能性は無限大です。大人が予想できないほどの素晴らしい発想力、創造力をもっています。私は、そんな子どもたちに寄り添いながら、保育者として未来を見つめていきたいと思えます。

会長表彰という賞に恥じぬよう、これからも日々精進し、より良い保育をできるよう努めて参ります。この度は誠にありがとうございました。